

2010年5月、基礎講座シリーズ開講。

## 何事も基本が一番重要だと信じて疑わない あなたのための講座ができました。

こんにちは、木坂です。

今回は、個人的には新しいコンセプトの企画のご案内です。

「新しい」というのは、別に新しい「内容」という意味ではなく、僕が今まで避けていたことをやる、という意味で新しいのですが、きっと、今まで僕のセミナーにあまり参加できなかった人たちには特に、有益なものとなると思います。

なんとなく心当たりがある場合は、ちょっとお時間取っていただいて、読んでみてください。

## イキナリの、結論。

何をやるのか、結論からいってしまえば、基礎講座シリーズです。

僕の企画・主催するセミナーは、どうも「難しい」とか「上級者限定」とか「バカは死ね」とか、そういった暗黙の了解があるように思われているみたいです。

もちろん僕自身にはそういったつもりはないですし、決して高度なことをしゃべっている自覚もないのですが、ただ、多くの人にとって、頭をフル回転させられることがなかなかしんどい作業であることは、理解しています。

ですから、僕のセミナーは、難しくはないけれど、理解するのがしんどいものである、という自覚はあります。

それが、良くも悪くも、参加者を極めて限定し、選別していました。

向上心が非常に高く、目先の利益よりも自分を高めることに重きを置くような人以外は、絶対に参加できないような企画ばかりになり、さらに参加費が業界的にみてもべらぼうに高いので、その向上心が「本物」でない限りはクリックする手が震えるようなものになっていたのです。

その結果、初めて僕のセミナーに参加する人が、ほぼ確実に以下のような感想を漏らすこととなります。

「参加者のレベルが高すぎて、正直ビビってしまいました。」

僕のセミナーは質問はセミナー中いつでも OK ということが普通で、みんな僕の話の腰をバキバキに折って好き勝手質問してくるのですが、その質問が、他のセミナーと比べて、別次元に高いらしいのです。

僕は他の人のセミナーをよく知らないので「そうなんですか」としか言えないのですが、初めて参加した人は、周りの参加者の質問を目の当たりにし、びっくりしてしまう、ということらしく。

この、レベルの高い質問をしているらしい参加者というのが、元々レベルが高かったのか、僕のセミナーに来るうちに自然とそのレベルになってしまったのかは知りませんが、いずれにせよ、そういった意味でも、参加者を限定し選別してしまっていたことは、事実のようです。

いわば、偏差値30の生徒を偏差値50にする講座が一切なく、偏差値80の生徒を偏差値100にするといった講座ばかりだった、ということですね。

そんな予備校、すぐ倒産しそうなものですが、ありがたいことに木坂予備校は今まで続けることができます。

ある意味、その事実が僕にとっては未来の希望なのですが、まあそれは今はいいでしょう。

# 偏差値30を偏差値50にする 木坂予備校開校。

ですから、今回はそういった諸々の理由で僕のセミナーに1ミクロン位興味はあったけど参加できなかった、という人を主な対象として、基礎講座シリーズという毎月受講していただくタイプのものを企画しました。

これは、スーパー気軽に受けていただけますし、「基礎」と名前が付いているくらいなので、下手したらメルマガなんかよりも平易な事柄をメインに扱っていく講座になります（平易、というよりも説明をより丁寧にできる、という感じでしょうか）。

さらに、「シリーズ」と名前が付いているくらいなので、一つや二つではありません。

今回紹介するものだけで、3つあります。

今後、どのくらい増えるかは参加者の方の要望次第、ということになるのですが、とりあえずは今回3つ紹介させていただきます。

興味があるものがあれば、気軽に受講してみてくださいませ。

もちろん、後で説明しますが、気軽な値段でもあります。

## 最短最速で基礎を固める3ステップ。

この基礎講座は、すべての講座で、基礎を固めるにふさわしい仕組みを採用しています。

これは、僕の予備校講師としての経験や、むしろ予備校の生徒だった時の経験、そして今セミナーを毎月何回も開催している経験などを踏まえて、「これが今考えられる最適な方法

である」と判断したものです。

ですから、普通僕のセミナーは学習のためのガイドラインというものがなく、いきなり「てめーの頭で考えててめーなりの学習方法を確立しやがれ」と大海原に一人放り捨てられるのですが、今回はそんなことはありません。

僕が船を用意し、目的地も示し、コンパスや海図も持たせます。

**あなたは、それに従って船を漕げばいいだけです。**

さすがに「代わりに漕いであげますよ」というところまではできないですが、というかそこまでやってしまっただけは何の意味もないのですが、少なくとも「舟を漕ぐ意思」を持っている人なら誰でも迷子にならないような形にしてあります。

いつものセミナーは、そもそも「脳みそを根本から鍛える」ということを目標にしていますので必然的に一人ぼっちの船出になるわけですが、今回の目的は基礎固めです。

であれば、それにふさわしいやり方、というものも存在しています。

具体的に説明しますね。

## 1. 問題を見て、自分なりに調べて回答する。

この3つの基礎講座は、2つのパートからなっています。

ひとつは、木坂オリジナルの問題集（PDF ファイル）。

もうひとつは、その解説音声（mp3 ファイル）。

つまり、いつものようにセミナーを受講するスタイルではなく、僕が勝手に作った問題集と解説音声毎月届くということです（必要に応じて、補足の資料も作って配布します）。

イメージ的に近いのは、おそらく多くの人が受験の時に使っていた、受験参考書とか問題集とかでしょうか。

で、まずは音声を聞く前に、問題集のファイルに目を通してもらいますが、その際、目を通すだけでなく、実際に回答してもらいます。

この時、自力で回答してもらってもいいですし、回答できなければ、何を調べても構いません。

ネットで検索してもいいし、本を読んでもいいし、人に聞いてもいい。

何をしてもいいから、とにかく一応の自分なりの回答を作るようにしてください。

回答ができたなら、次のステップです。

## 2. 解説を聞く。

ここで初めて、僕の解説音声を聞くようにしてください。

何も考える前から、白紙のままいきなりこの音声を聞いてしまうと、まあ「なるほどねー」とは思うでしょうが、身にはつきません。

受験期を思い出してもらえれば、これも自明でしょう。

また、この音声は「解答」ではなく「解説」ですから、問題集の答え合わせのような時間にはなりません。

モデルとしての「解答」を示すことはあるでしょうが、基本的には「考え方」とその背景の解説、またそこから派生して得られる知見の解説にほとんどの時間を割きます。

ですので、単なる丸つけの時間ではなく、ある意味最も自分の脳みそが成長する時間となります。

ただし、その成長の前提に、前もって自分で回答を作っている、というものがあることは、何度でも強調しておきたいところです。

### 3. もう一回自分なりに回答する。

そして最後のステップですが、言ってしまえば復習です。

自分なりに回答し、解説を聞いた後では、回答する前の自分とは明らかに脳みそに変化が感じられると思います。

その「新しくなった脳みそ」を使って、「成長した脳みそ」を使って、また回答してみるのです。

このときは、他に何も参照しないようにしてください。

自分の頭だけで、回答を作ってみる。

僕の解説を聞いた段階で、「なるほどなるほど」と思うことは間違いありませんし、ほとんどの人がそこで終わってしまうであろうことも予想できていますが、だからこそ、この最後のステップまでまじめにやった人というのは、群を抜いて成長することができます。

最後の一步、この面倒くさい最後の一步まできちんとできるかどうか、そこが数カ月後、如実に差になって現れることを、保証します。

そんな面倒くさい保証しないでくれよ、と思うかもしれませんが、保証したくなくても保証できてしまうのだから、諦めてこのステップまでやるようにしてください。

以上が、僕が約10年の経験から導いた、最も効率よくまた確実に基礎を固めることができる3ステップです。

このステップに従って毎月学習してもらうことで、おそらく一人でやみくもに勉強する数倍の効率で、基本的な知識や考え方が身についていることと思います。

といっても、別に新しい方法でも何でもなく、むかーしから言われている非常にオーソドックスな方法ですけどね (笑)。

急がば回れ、じゃないですが、結局、一番基本に戻ってくるものです。

また、この方式は今から説明する3つの基礎講座すべてに共通する方式ですので、講座によって学習法が違うなどの混乱をきたすこともなく、純粋に船を漕ぐことに集中してもらえenと思います。

## 3つの基礎講座詳細。

それではいよいよ、3つの基礎講座の詳細を説明したいと思います。

そんなに複雑なものではないので、できるだけ簡単に説明しますね。

### 1. ビジネス基礎講座

まず一つ目が、ビジネスの基礎講座です。

過去、僕はいろんな教材を出しましたし、メルマガもずっと書いてきていますが、最も基本的なものであるネットビジネス大百科ですら、「上級者向け」という謎の評価をもらうに至っています。

完全に基本の話しかしてないだろ、と心の中で叫んではみるものの、世間の受け取り方がそうなのであれば、いたしかたない。

**ということで、誰の目にも明らかほどの、基礎講座をやってしまうことにしました。**

もう、ドがいくつついても足りないくらいの基本用語の解説から始まります。

とは言え、解説をするのは僕ですから、その辺の本に書いてあるような、教科書的な解説はしないことは、言うまでもありません。

だって、やっててつまんないから。

また、いくら基礎講座とは言え、基礎から中級への橋渡しも兼ねなければいつまでたっても応用がきかないじゃないですか、ということも当然加味した、ありそうでなかったものにする気満々だったりします。

つまり、用語の解説に始まり、その用語が現実の場面で持つ意味、実際の現場でどのようにその知識を応用するべきか、という考え方などに至るまで、幅広く解説するということです。

もちろん、よく知られた言葉で言えば、マーケティングとか、コピーライティングとか、そういった話も根掘り葉掘りしなくてはならないでしょう。

**乱暴にまとめてしまえば、「ビジネス」に必要な概念や考え方すべてを解説することはとてもできないでしょうが、重要なものから順に、徹底的に解説していく講座である、ということですね。**

ですから、これから起業する人、もしくはこれから起業準備をする人、さらにはすでに起業していて自分の知識の整理と基本の確認をしたい人、などが対象となります。

特に、自分が本当にやりたいことや理念などを、ビジネスというものを通して形にしていきたい人、さらには自分だけにしかできないことをやり、それによって世界に対して何かしらの貢献ができるような人生を生きたい人に受講してほしいです。

**ビジネスは、人生や人間性の表現方法の一つです。**

変に高度なテクニックや、誰も聞いたことがないというだけの「最新の」知識がほしい人には向きません。

「できるだけ高い値段で、できるだけ多くの人に、できるだけたくさん売りつける」という、謎のガイジンが提唱しているマーケティング上の一大パラダイムをいまだに妄信している人にも向きません。

ビジネスをするにあたっての基本的な「考え方」や、重要概念の正しい理解、そう言ったものを求める人には初心者も上級者も関係なく学び多き講座になると思います。



## 2. 情報処理（インテリジェンス）基礎講座

二つ目は、世間で「インテリジェンス」と呼ばれて最近市民権を得てきた、情報処理に関する基礎講座です。

「情報処理」と言うとはよく意味がわからないと思うのですが、一言で言えば

**「真実を見極める目と頭を養う」**

ということに尽きます。

「情報社会」などと言われ、有象無象の情報があふれかえり、テレビや新聞をはじめとする各メディアによる情報操作、そして洗脳があからさまになってきている昨今、いかにして真実を見極め、自分や自分の周りの人間を守っていくか、ということが非常に重要になってきていると、僕は感じています。

もっとわかりやすく言えば、騙されないためには、情報に踊らされないためにはどうしたらいいの、ということです。

情報社会、という言葉が意味することは、実は簡単なのですが、はっきりと自覚している人が思いのほか少ないのでここで僕がはっきり言っておきます。

情報社会というのは

**「情報を支配できた人間だけが生き残る社会のことである」**

ということです（ただし、その他の人間を支配し、踏み台にし、人柱にし、搾取するから生き残れるというわけではありませんので、適当に読んで誤解しないようにお願いします）。

資本主義社会、であれば「情報」の部分が「資本」になります。

民主主義社会、であれば「情報」の部分が「民主」になります。

ただそれだけなのですが、こんな簡単なことすら、ぼんやりとしかわかっていないのが、

いや、わからないようにさせられているのが、我々日本人なのです。

しかしながら、無限にあふれかえる情報を「正しく」しかも「できるだけ素早く」処理して真実を見極めていくことは、簡単ではありません。

というよりも、それに特化した訓練と経験が必要なのです。

我々には、学校で決して教わらないことがいくつかあります。

たとえば、お金。

たとえば、セックス。

たとえば、正しい歴史。

そしてこの情報処理の方法もそうです。

これらは、ただ時間がないから教えられないのではなく、意図的に、教えられないようになっているのです。

なぜ教えてはいけないか、それは、国民がこれらの正しい知識を持ち、正しく頭を使い行動できるようになってしまうと、とても困る人たちが、少なからず存在してるから（これは陰謀論などというものとは全く別次元の話です）。

**そのような人たちに騙されることなく、支配されることなく、踊らされることなく、本当に自分の頭で正しいと認めた真実をつかみとれるようになること、それがこの講座の目的となります。**

主に時事的な題材を用いて、その背後に巧妙に隠されている真実を見抜くための訓練をしていきます。

ただし、ここで注意しておきたいのですが、あくまでも「見抜くための訓練」です。

「背後にある真実を木坂が教えてくれる」などという洗脳されやすさ120%の人には向かない講座だと思しますので、その辺はあらかじめご理解の上、受講を検討してください。

真実は時として、口にできないこともあるのです。

それもまた、真実。

### 3. リーディング基礎講座

最後が、リーディングの講座になります。

「あなたは本当に、その本を正確に読めていますか？」

と聞かれて、自信を持って「ええ、もちろん！」と答えられる人は、なかなかいないと思います。

実際、僕自身そこまで自信を持って答えられるわけではありません。

「はい」と答えるためには、実に様々な条件が付きます。

もしも何の躊躇もなく「あたぼーよ！」と答えられる人は、本当に読めているか単なる勘違いかのどちらかだと思いますが、実際には読めている人1%未満、単なる勘違い残り全員、という割合だと思うので、どちらにせよほとんどの人は本を読むという、一見ものすごく単純なことができていないということになります。

それは、上のインテリジェンスの話ではないですが、我々が学校で、本当に正しい「読み方」を教わることがなかったからです。

くどいようですが、国民が「本当に」本を読めるようになってしまうと、とても困る人たちが、いるということです。

文字の読み書き、というのは、そもそも「選ばれし者」にのみ与えられた特権でした。

英語で文字を書き取ることをディクテーションと言いますが、この語源はラテン語のディクタトルです。

ディクタトルとは、単純に「支配者」という意味です。

つまり、そもそも文字を書いたり読んだりすることというのは、支配者であることと同義だったわけですね。

さて、現在の日本は「主権在民」をうたっていますが、これが完全な茶番であることくらいは、うっすらとわかるかと思います。

誰が支配者なのか、もちろん国民です、は、国民を黙らせ飼いや馴らしておくための方便であって、実際には違います。

では本当は誰か、という問題は今は避けますが、いずれにしても、我々が「本当に」読み書きができるようになってしまえば、それは実際の支配者の器になることを意味します。

特に、先ほども言ったことですが、情報社会である現代においては、その傾向はより顕著になる。

情報のほとんどは文字ですから、これを正しく読み解ける人というのは、非常な脅威になるのです。

そうなってしまつては困るから、我々は読み書きの方法を教えられない、というわけですね。

この講座では、すべての基本となる、文章の読み方を、徹底的に身につけていきます。

誰でも読めるようなものから誰にも読めないくらい難解なものまで、様々なテキストを題材としながら、それを極限まで正確に、きちんと読んでいく訓練をするというイメージです。

たぶんですが、使う文章は比較的短いものになると思います。

短いものも適当にしか読めないのに、長い文章なんか、読めるわけないですから。

文章を読むことにこだわってみたい人、本を読むのは好きだけど、いつもあんまり頭に残らない人、著者の息遣いを感じるほどに肉薄して読んでみたい人、支配者の器になりたい人（笑）などが、主な対象になるかと思います。

ベストセラーになるような中身の薄い本を5分で読んで自分の速読っぷりをみんなに自慢してみたい人、1行読んで難しかったらその本はもう読む気すら起きない人などは、受講する意味がないと思います。

これが、3つの講座の内容になります。

本当はライティングの講座も設けたかったのですが、まあリーディングがある程度進んでからでないとも意味もないだろうと判断して今は作っていません。

あしからず。

## 月に1冊くらいは本を読みますか？

もし、この質問に「はい」と答えられるなら、一般的に言えばあなたは相当の読書家に分類されます。

逆に言えば、一般の人たちはそれくらい本を読まないということです。

また、読書家であるということは、本にかけているお金が、人よりも何倍もある、ということです。

ある人はこう言っています。

**「読書人というのは、ひとつの階級である」**

と。

これは正しいと僕も思います。

本を読む意思があるかないかというのは、それだけで階級を隔てます。

この不況、ただでさえ生活も苦しいのに、わざわざ紙とインクの複合物を買って、バイトでもしてればいいのにそれをせずに黙々と読むわけですから、全く暇なやつらだと言われてもおかしくないと思いませんか？

でも、それがひとつの階級となり、数年後に、圧倒的な差になっていると、僕は確信にも近い感覚を持っています。

そして、月に1冊本を読む、とすれば、毎月1500円くらいは本にお金を使っているということです。

10冊読むならその10倍。

僕のように気持ち悪い学術書ばかり読む人は、単価が異常に高いので、さらにその数倍になるということです。

これが、世間的にみて「異常」でなくてなんだと言うのでしょうか？

挙句の果てに僕のセミナーなどにまで手を出してしまった人たちは、さらに年間100万円以上の出費がかさむことになります。

ここまでできてしまうと、読書人階級というほかに、経済的にも恵まれている階級の人でなければ加わることができない、ということになってしまいます（苦笑）。

ですが・・・

## 今回参加資格があるのは、“純粹な” 読書人階級の人たちです。

ご存じのとおり、過去僕が開催したセミナーは例外なく高額でした。

2時間くらいのセミナーで5万円、1年ものとかになれば100万円以上ですから、読書人階級+経済人階級という2つの階級に同時に属していないと、参加したくてもできなかったというのが実際のところだと思います（ただ、参加者の方たちは内容に比して非常に安いとは（たぶん半分くらいお世辞で）言ってくれます）。

もちろんこれはこれで理由があってそうしているのですが、今回は違います。

月に1冊以上本を読む読書人階級の人なら、文字通り“誰でも”参加できるような価格にしました。

具体的に言えば、各基礎講座の参加費は、月々

**1470円**

です。

大体単行本1冊と同じ値段ですね。

**それでいて、単行本10冊読むよりもはるかに有益な情報が得られることを、保証します。**

そういう、実にすばらしい企画なのです。

ただ、ここまで価格を下げてしまっている関係で、申し込みは、半年単位か1年単位のみとさせていただきます（月極めにすると、各種手数料や管理費、そして手間などが案外うっとうしいので）。

半年受講の場合は1470円×6ヶ月＝8000円です。

計算は間違っていないと思いますが、万が一間違っても、8000円で構いません。

1年受講の場合は1470円×12ヶ月＝15000円です。

幼稚園の頃から繰り上がりのある計算ができたほど、計算には自信があります。

また、3つすべての講座を受講したい、という向上心あふれる人のために、3つの場合も

ミスター公文式と異名をとった僕が計算しておきますが、半年の場合は8000円×3講座=22000円です。

1年の場合、15000円×3講座=4万円になります。

このくらい暗算でできてしまうから自分の能力が怖いくらいです。

自分の情熱と、お財布事情を天秤にかけて、判断していただければと思います。

## お・ま・け。

というなんとも気色悪い小見出しをつけてみましたが、3つの講座をすべて受講する方には、おまけをひとつ差し上げます。

これも毎月送らせていただくものなのですが、題して、

### ・メッタ切るかもしれないと言えなくもない書評（非売品）

です。

毎月1冊、僕が選んだ本を、僕が書評してお送りします（音声ファイルになると思います）。

書評、というのはメルマガもブログもあふれていると思いますが、それらとは一味もふた味も違う書評をお楽しみいただけることでしょう。

また、ここがひとつポイントになるのですが、今回の3つの基礎講座の応用編と位置付けていただいても構いません。

### どのように本を読み、どのように背後を掴み、どのように表現するか。

書評をするというのは、3つの講座すべてが活かされるのです（逆に言えば、表面的な文



字だけを追っかけて感想を述べているだけのものは、僕は書評とは呼びません)。

単純に書評としてもお楽しみいただけるとは思いますが、基礎講座の実践編、実例としても是非お楽しみください。

ちなみに、この書評のみを単品で販売することは、たぶんないと思います。

場合によっては、というか僕にはよくあることですが、大人として言うてはいけないことも言うてしまうかもしれないので(苦笑)。

## 記念すべき一冊目は・・・

実はすでに決まっています。

「お金のシークレット (デビット・クルーガー著、三笠書房刊)」です。

正直に言えば、特に目新しいことが書いてある本ではないですし絶対にこれでなければいけないとかそんなに大きな理由もないのですが、ひとつに、最近読んだ本であるということ、また平易に書かれている割にはそれなりに面白い本であったこと、そして最後に、この手の本にありがちな「読者の誘導」が、非常に巧妙で巧みであること、が取り上げる大きな理由として挙げられます。

いや、「誘導」と言っても別に悪意のある誘導ではないし靈感商法とかスピリチュアル詐欺によくみられることとは無縁ですが、それでも、ある種の誘導が行われています(一応言うておきますが、これは汚点ではなく、書籍としては当然のことです)。

そして、その誘導の仕方が非常に巧みで、普通に読んだだけでは、まず気がつかない。

その辺のやり方というのは、ある程度オーソドックスなのだけど、一度教えられないとわからないと思うので、これを機に少し解説しようと思います。

この本に限らずあらゆる書籍は何らかの誘導を行うものですが、その誘導に「気づかずに」

乗っかっていくのと、気がついた上で「主体的に」乗っかるのとでは、雲泥の差があるのです。

以上が、新しい企画の全貌です。

基礎講座シリーズ。

やってみたくなったらやってみる、が信条なので、とりあえずいつものように企画だけまとめて告知してみました。

僕の予想は外れたことがないことで有名なのですが、この講座は気軽に楽しめて、なおかつ非常に勉強になると思います。

今までの僕の企画は、あらゆる面でのハードルが高めに設定されていたようなのですが（あまり自覚はないにせよ）、これはもう、わざわざスケジュールを合わせてセミナーに出る必要もなく、いつでも好きな時に好きなところで受講することができ、なおかつ内容は基礎から中級までを徹底的に、というものですから、ハードルは2センチくらいではないでしょうか。

しかも、読書人階級であれば、誰でも参加できる価格帯。

ピンと来た人は、迷う理由も特にないと思いますので、試しに受講してみてください。

ピンとこなかった人は、そんな残念な自分を呪うことなく自分なりに学習を続け、また機会があれば僕の教材でも学んでみてください。

ではでは、音声を通してお会いできることを、楽しみにしております。

ここまで読んでいただき、ありがとうございました！

木坂

追伸：実は今回、この基礎講座の上位コースとして、3つの新しいマスタークラスを用意しています。

CMCの卒業生の方にはそちらをすでに紹介してしまして、申込率は7割を超えています。

別にCMCの続きの講座という位置づけでは全くないのですが、かなり本格的なものになることは間違いないと思うので、ここでは特に紹介しないことにいたしました。

ほとんどの人にとっては、基礎講座で十分だと思いますし。

あと、当たり前ですが上位コースは基礎講座とは比較にならないほど高額です。

その意味でも、一部の人にしか必要のない情報かなと思います。

一応、基礎講座を申し込んでいただいたときに送られる自動返信メールに、この上位コースの案内が書かれたPDFのリンクを載せておきます。

よほど熱心な場合を除いてはあまり関係ない講座だと思いますが、ある人にとっては、人生が激変する講座だと思います。

興味があれば、そちらも検討してみてください。